

令和3年8月15日

緩和ケアセンター専従医師の仲間を募集しております。

がん疾患新規依頼が900件（がん拠点病院平均200件）を越えていることに加え、非がんの慢性疼痛、循環器科や小児科の非がん疾患の専門的緩和ケアの拡充も願っており、若干名の緩和ケア医の受け入れを準備しております。

これまでの専門科は問いません。どのような研修内容を希望されても、それに応えられると考えております。在宅緩和ケアの兼務も可能です。

職種は心療内科医員での募集となりますので、3年～15年の臨床経験のある先生を希望しておりますが、適宜お問い合わせ下さい。

施設見学等も随時行っていますので、お気軽にご連絡ください。

連絡先：蓮尾英明 (hasuohid@hirakata.kmu.ac.jp)

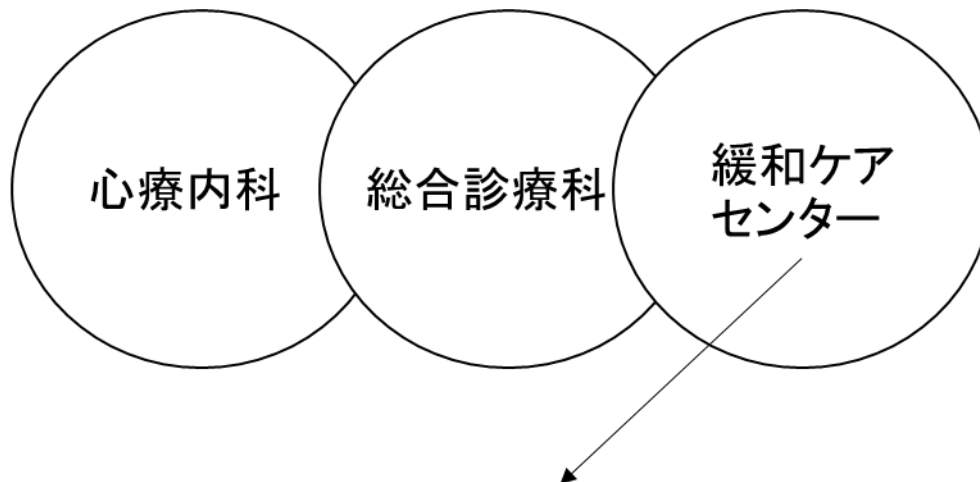
入院がん患者へのチーム介入を主軸に、外来（痛み・つらさ外来、サイコオンコロジー外来、リンパ浮腫外来、家族ケア外来）、入院（緊急時の緩和ケアチーム担当病床）を担当頂きます。当チームは、がん治療を頑張られている方々を支えることを目的としています。そのため、関わりは、身体・精神症状の緩和、がん支持療法、意思決定支援、終末期ケアなど、多岐に渡ります。

特徴は、以下の2つです。

- ① 主治医と連携して薬物治療や神経ブロック治療といった介入を積極的に行っています
- ② 専任心理士と連携して心理療法やそれに関連した臨床研究を積極的に行っています

日本緩和医療学会の認定研修施設であり、専門医取得は可能です。

さらに、並行して心療内科・総合診療科の研修をして頂くことも可能で、それに関連した専門医取得も目指すことができます。



緩和ケアセンターの臨床・研究

臨床：年間新規依頼数900件、直接介入型

研究：英語論文27本、研究助成12件（2017-2021）

看護師、心理士、薬剤師が社会人大学院生等として医学博士取得（または予定）をしています。

1. 競争的外部研究資金下の研究

- ・がん患者の不眠に対する在宅心身モニタリング（医師）（科研費：2018～2020）
- ・がんサバイバーに対するマインドフルネスストレス低減法（心理士）（科研費：2019～2021）
- ・家族介護者による筋筋膜性疼痛に対する虚血圧迫法RCT（医師）（笹川保健財団：2019）
- ・がん患者の筋筋膜性疼痛に対するトリガー注射RCT（医師）（緩和医療学会：2020～2023）
- ・赤外線瞳孔計を用いたがん患者のつらさの客観的評価（医師）（丹家雛子基金：2018）
- ・在宅でのがん患者の家族セルフケアシステムの開発（医師）（勇美財団基金：2016）

2. 共同研究

- ・がん関連神経障害性疼痛に対する国際多施設共同第III相二重盲検RCT（AMED）
- ・がん関連倦怠感に対するデキサメタゾン8mg内服の多施設共同第II相試験（AMED）

3. 緩和ケアチームメンバーの臨床研究

- ・手を握る行為によるがん患者と家族介護者の共鳴効果（看護師）
- ・がん患者の個別化鎮痛目標に対する関連因子（看護師）
- ・経口投与困難ながん患者の不眠へのクロルプロマジン静注（薬剤師）